

平成 31 年 4 月 18 日

教 育 長 様

代表者 校 園 名 :	大阪市立喜連中学校	校印
校 園 長 名 :	竹 内 昭 典	
電 話 :	06-6704-0003 F A X : 06-6797-8152	
事務職員名 :	坂 口 起	
申請者 校 園 名 :	大阪市立喜連中学校	
職 名 ・ 名 前 :	教 頭 丹羽健太郎	
電 話 :	06-6704-0003 F A X : 06-6797-8152	

研究コース
B
校 園 コー ド (代 表 者 校 園 の 市 費 コー ド)
752726

平成31年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	B	研究年数	新規研究
2	研究テーマ	生徒一人ひとりの言語活動の充実を図る研究 －「対話」を深めるさまざまな思考活用ツールの援用を通して－			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>○教科等の特質に応じた言語活動の充実 ○知的活動（論理や思考）の醸成 ○身体活動を通じた言語活動の充実 ○感性に沿ったコミュニケーション能力の構築 ○新しい学習観の育成（society5.0 に向けて） ○自己理解と他者理解を通じた言語活動の充実</p>			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>知識基盤社会の発展に伴い、グローバル化の波が急激に進む社会の中で、子どもたちには様々なキー・コンピテンシーが必要となっている。また、IoTやAIの発達により、到来が予想されているSociety5.0の中で生き抜く力も必要とされている。</p> <p>本研究では、そのような社会の中で生徒一人ひとりが生き抜くために、「対話」をひとつのテーマとし、さまざまな思考活用ツール（ホワイトボード：例、まなボード・ボックスフィット：例、ボクササイズ・ブロック：例、レゴブロック）を援用させることによって言語活動の充実を図るものである。</p> <p>本研究内容は大きく下記の3分野となる。</p> <p>○教科等の特質に応じた言語活動の充実 ○知的活動（論理や思考）の醸成 ：小型のホワイトボード等にワークシートを活用した協働学習をすすめ、生徒一人ひとりの知的活動を刺激し、教科の特性に特化した言語活動の充実を図る。</p> <p>○身体活動を通じた言語活動の充実 ○感性に沿ったコミュニケーション能力の構築 ：ボックスフィットを援用した身体活動を通じて、実際に身体を動かした感覚を言葉で表現し、生徒間の感性の共有を促進させながらコミュニケーション能力の向上を図り、言語活動の充実をすすめる。</p> <p>○新しい学習観の育成（society5.0 に向けて） ○自己理解と他者理解を通じた言語活動の充実 ：ブロックを思考活用ツールとして援用し、生徒一人ひとりの幅広い知識や柔軟な考えを可視化し、生徒の思考力や表現力を深め言語活動の充実とともに自己・他者理解を醸成する。</p> <p>これらの研究内容を、中学校籍15名・小学校籍2名・教員志望学生3名の計20名で進め、教科の壁や校種の差異、世代の違いをこえて深く協働し、相互に学び続ける教師を実践しつつ、児童・生徒一人ひとりの言語活動の充実を図るとともに、生きる力の育成に努める。</p>			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>教員及び生徒アンケートにおける質問項目の検討と作成及び実施と分析：4・5・9・1月 実践交流会（思考活用ツールを援用した教育実践）：6～2月 グループ学習会（思考活用ツールの援用方法の検討と共有）：6～2月 大学教授による指導助言（大阪教育大学 加賀田教授・奈良教育大学 赤沢准教授）：6～2月 校内研究授業①～③（研究発表及び成果の共有）：9・11・1月 大阪教育大学教育学部との交流会（理論と実践の交流）：8月 研究大会への参加（参加後、大会内容の周知及び研究内容への活用）： 日本教育経営学会（6/7-9・名古屋大学）、日本カリキュラム学会（6/22-6/23・京都大学）、リーダー育英塾（8/17-19・クロス・ウェーブ船橋）、日本教師教育学会（9/21-22・岡山大学）、日本教育行政学会（10月頃、開催日未定） 研究報告書作成及び研究要旨作成（本年度の成果と課題、アンケートの比較及び分析）：1～2月</p>				
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【成果①】 小型のホワイトボード等（例、まなボード）にワークシートを用いた協働学習をすすめる、生徒一人ひとりの知的活動を刺激し、教科の特性に特化した言語活動の充実を図る。</p> <p>【検証方法①】 協働学習を実施する事前と事後において生徒アンケートをおこない、「各教科の授業を受けるのは楽しい」・「グループのみんなと意見交流することは楽しい」・「ホワイトボードを使って意見交流しながらすすめる授業は楽しい」に関する肯定的な回答を10％上昇させる。</p> <p>【成果②】 ボックスフィットを援用した動的活動を通じて、実際に身体を動かした感覚を言葉で表現し、生徒同士の感性の共有を促進させながらコミュニケーション能力の向上を図り、言語活動の充実をすすめる。</p> <p>【検証方法②】 ボックスフィットを実施する事前と事後において生徒アンケートをおこない、「ボックスフィットの授業を受けるのは楽しい」・「身体感覚を言葉で表現することはおもしろい」に関する肯定的な回答を10％上昇させる。</p> <p>【成果③】 ブロック（例、レゴブロック）を思考活用ツールとして援用し、生徒一人ひとりの幅広い知識や柔軟な考えを可視化し、生徒の思考力や表現力を深め言語活動の充実とともに自己・他者理解を醸成する。</p> <p>【検証方法③】 ブロックを使った授業を実施する事前と事後において生徒アンケートをおこない、「ブロックを使った授業を受けるのは楽しい」・「ブロックを使うと自分の意見が表現しやすい」・「ブロックを使った方が相手の表現が理解できた」に関する肯定的な回答を10％上昇させる。</p>				
8	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 <u>報告書提出日（2020年2月25日）までに必ず行ってください。</u> ○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="416 1655 1474 1711"> <tr> <td>日程</td> <td>2019 年 11 月 28 日</td> <td>場所</td> <td>大阪市立喜連中学校</td> </tr> </table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】</p> <p>他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	2019 年 11 月 28 日	場所	大阪市立喜連中学校
日程	2019 年 11 月 28 日	場所	大阪市立喜連中学校			
9	代表校園長のコメント	<p>生徒一人ひとりの言語活動の充実、大阪市にとって喫緊の教育的課題である。そのため、早急に効果的なツールを活用し、研究実践を進めていかなければならない。 特に、思考活用ツール（参考：まなボードやレゴブロック等）を用いた研究は、大阪市の児童・生徒の言語活動の充実に向け、大きな成果を成すと期待する。 また、身体活動（参考：ボクササイズ）を言語によって表現する観点も、大きな成果を成すと期待する。 本研究は、多くの中学校だけではなく、小学校も参加する研究プロジェクトであり、是非とも申請を採用していただきたい。</p>				

提出用ファイル
保 存



提出されるファイルが完成しましたら、こちらをクリックし保存してください。

(「**コンテンツの有効化**」を行ってください)

メールの表題およびファイル名

(グループ) AまたはBまたはS 校 園 名 日 付

(例) A中之島小学校20190410

S淀屋橋中学校20190415

ファイル提出先: **g806702@city-osaka.ed.jp**

継続研究の場合は、原則として前年・前々年と同じテーマを記載してください。

《お願い》

フォントは、「MSゴシック」で、研究テーマは12ポイント、

日程の羅列だけでなく、主な実施内容も記入してください。

<記入例>

- 4月 昨年度までの課題や先行研究を確認した後、研究テーマ・目的・内容・見込まれる成果等の検討
- 6月 教員・児童への事前アンケート作成・実施・分析
- 7月 研修プログラム作成 研修（公開授業に向けた授業者、指導案の検討など）
- 8月 研究大会参加（参加後、内容の周知及び研究内容に活用）
- 9月 研究協議会（研究成果・課題について協議し改善方法を検討）

《お願い》

フォントは、「MSゴシック・10ポイント」を使用し、必ず枠内に収まるようにしてください。

見込まれる成果とその検証方法を記入してください。

見込まれる成果について、それぞれ客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。

<記入例>

○学習教材に関する研究を進めることにより、子ども一人ひとりの状況に応じた学力の

向上に取り組む。

【検証方法】経年調査において、前年度と比較し、「知識・技能」に関する項目で5ポイント

上昇させる。

○保護者・地域と連携した活動や、人・自然・文化（もの）との関わりを通じた豊かな

体験活動が児童の学習意欲を高め、協力してよりよい学校生活を築こうとする態度を

育てる。

【検証方法】活動の事前と事後において、児童アンケートを実施し、児童の「関心・意

欲」に関わる項目で5ポイント上昇させる。

○体験を重視した授業づくりをめざし、理科学習や学校行事等において観察・実